

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

( 第 3 号 )



1 平成6年9月16日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1 番 秋山 光章  
3 番 島田 保  
5 番 宮沢 治海  
7 番 鈴木 順子  
9 番 脇田 安保  
11 番 山崎 雅己  
13 番 榎本 春光  
15 番 山中金治郎  
19 番 川名 正二  
21 番 神田 守隆  
26 番 辻田 実  
28 番 飯田 義男

2 番 増田 基彦  
4 番 斉藤 実  
6 番 植木 馨  
8 番 永井 龍平  
10 番 庄司二三男  
12 番 岩村 勝弘  
14 番 小宮 利夫  
17 番 鈴木 忠夫  
20 番 生稻 陞  
22 番 福原 勤  
27 番 横溝 功

1 欠席議員 3名

16 番 鈴木 勝美  
23 番 石井 昌治

18 番 日下 君敏

1 出席説明員

市長 庄司 厚  
収入役 川上 義雄  
総務部長 神子 純一  
経済部長 小沼 晃  
水道課長 谷貝 実

助 役 小幡 清之  
市長公室長 永野 修  
民生部長 渡辺 富雄  
建設部長 三平 孝司  
教育委員会  
教 育 会 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一  
書記 四ノ宮 朗  
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲  
書記 安田 仁一  
書記 松浮 郁夏

# 1 議事日程（第3号）

平成6年9月16日午前10時開議

日程第1 議案第31号 平成6年度館山市水道事業特別会計補正予算  
（第1号）の専決処分の承認について

日程第2 { 議案第32号 館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する  
条例の一部を改正する条例の制定について  
議案第33号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に  
関する条例の一部を改正する条例の制定につい  
て  
議案第34号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する  
条例の一部を改正する条例の制定について  
議案第35号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例  
の制定について  
議案第36号 工事請負契約の締結について

日程第3 { 議案第37号 平成6年度館山市一般会計補正予算（第1号）  
議案第38号 平成6年度館山市国民健康保険特別会計補正予  
算（第2号）  
議案第39号 平成6年度館山市下水道事業特別会計補正予算  
（第1号）

日程第4 請願第20号 老人医療の入院給食助成に関する請願書

日程第5 請願書の取り下げについて

開 議 午前10時03分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数23名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、議案第31号平成6年度館山市水道事業特

別会計補正予算（第1号）の専決処分の承認についてを議題といたします。

#### 質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託の省略

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

#### 討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

#### 議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第2、議案第32号乃至議案第36号の各議案を一

括して議題といたします。

### 質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第32号館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。

旧婦人会館の建てかえに伴う条例の改定であります。今度の会館は愛称は菜の花ホールとのことでありますが、市民に親しまれた婦人会館の建てかえ後の施設でありますから、市民の期待も大変大きなものがあるかと思えます。

そこでまず第1点は、この施設の管理運営はどのように行うのかという点について御説明いただきたいと思うのであります。議案説明書によりますと、学習等供用施設は現在北条地区と豊津地区の2つの施設があります。北条地区学習等供用施設はコミュニティセンターの一部になっておりますし、また豊津地区学習等供用施設は、地元の区長さんらでつくる豊津地区学習等供用施設管理会に委託しています。そこで、この菜の花ホールの場合は具体的にはどのように管理運営をしていこうとするのか、御説明いただきたいと思うのであります。

次に、この管理運営に関連してお尋ねをいたします。類似の施設として公民館では、その運営について、住民の参加を制度的に保障するものとして運営審議会が設置されているわけでありまして。学習等供用施設についてはこうした規定はありませんが、社会教育は住民の参加によって進めていくというのはいわば原則だと思います。学習等供用施設の場合はこの住民参加についてどのように考えているのか、お聞かせいただきたいと思えます。

次に、豊津地区学習等供用施設について、利用実績が大変少ないというふうに聞いておるわけでありまして、どういう状況なのでありましょ

説明をいただきたいと思います。

第2点は、いわゆる料金についてお尋ねをいたします。従来の婦人会館では400円ほどの料金でございましたが、これに比べて今回は大変高くなりました。確かに設備も新しくなったので、これまでと違うことになるだろうとは思いますが、また既に建てかえ計画の段階でも、新しい会館になって余り高くなるのは困るという意見も出されておりました。従来の婦人会館の使用料金に比べると、大幅なアップと言ってよいかと思いますが、なぜこのような料金を設定したのか、御説明をいただきたいと思います。

第3点は、設置条例では本市住民が社会教育活動のために使用する場合は無料となっているわけですが、この社会教育活動のために使用するということの意味についてどのようなことなのか、どのようなケースが無料になるのか、逆にどのような場合は有料になるのか、その運用について御説明をいただきたいと思います。

第4点は、駐車場の問題についてであります。菜の花ホールの駐車場についてどのように考えておりますか。この施設は町中にあるため、徒歩や自転車などの利用が多いと見込まれておるかと思いますが、今後自動車の利用ということも多くなることが考えられます。その際、近くにある図書館や中央公園の駐車場等の効率的な利用はできないかと思うのでありますが、どのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案第33号及び第34号についてお尋ねをいたします。身体障害者及び老人のホームヘルプサービス事業に関する条例の一部改正に関する条例についてであります。今回値上げをしようとするものでありますが、値上げはG世帯——生計中心者の前年度所得税課税年額14万1円以上の世帯について、従来の1時間880円を900円に値上げしようとするものでありますが、年度途中で実施する、しかも大変細かい値上げであります。この値上げの緊急性や重要性は果たしてあるのかどうか、大変疑問に思うわけであります。たとえわずかな細かい値上げであろうとも、こうして議案となり、議会の審議対象にするとということ自身に意味があるのかとも思います。そこで、せっかくですから、市のホームヘルプサービスの現状や問題点についてお尋ねをして

まいります。

まず第1点は、今回値上げ対象となるG世帯で具体的に今回の値上げに該当すると思われる世帯は身障者及び老人でそれぞれ何世帯ありますか。

次に、今回のこの値上げによる市の増収は幾らになると見込んでおりますか。

次に、今回の値上げは国の要綱の改定によるものだということですが、国の要綱の改定は市町村の条例を直ちに改めることを義務づけているわけではありません。県内30市の中ではどのようになっておりますか、調査していますか、他市の状況はどうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、ホームヘルパーは在宅福祉のいわば大黒柱とも言うべきものであります。利用実績はどうでありますでしょうか。ホームヘルパーの利用率について、全国の平成4年度の実績が昨日――敬老の日の15日付の新聞に公表されましたが、65歳以上人口100人当たりの年間利用日数は61.9日でありました。平成元年度は42.2日でありましたから、3年間で46.6%も利用実績が全国的には伸びていることになります。館山市はわずか17.1日でありました。全国平均の半分よりはるかに少ない水準でありましたが、利用率は果たして国のように大幅に伸びているのでありますでしょうか。今後どのようにヘルパーの派遣制度の充実について進めようとしているのか、そのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、新ゴールドプランでは、ヘルパーの人数を10万人から20万人に倍増するということですが、これは高齢者1,000人当たり4.6人から9.2人にするということになります。館山市のゴールドプランでは、ホームヘルパーを11人から54人にするということですが、それでもこの水準は、達成したとしても、65歳以上人口1,000人当たり3.8人にすぎません。全国的には9.2人を目指すという水準からすれば、4割程度の水準でしかありません。館山市のホームヘルプサービスは大変おくれた水準の目標ということになるのではないかと心配をするのでありますが、どのようにお考えになっておりますのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、議案第36号工事請負契約の締結についてお尋ねをいたします。房南



中学校の校舎改築工事に関する請負契約であります、この契約の入札方法は一般競争入札とのことですが、この競争入札に参加した11社にはどのような業者が参加をしたのか、具体的に御説明をください。また、その中には地元業者はどのくらいあったのか、あわせて御説明をいただきたいと思っています。

一般競争入札は、不正談合を防止する上で効果的と考えられますが、一方、行政の負担が大変だと言われてまいりました。実際に実施した上でどうだったのか、その感想も含めまして御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、入札は指名によるものあるいは一般競争の入札方法があるわけですが、入札は本来、法的には基本的に一般競争入札が原則であります。指名競争入札を許されるのは、特殊な技術を要する工事であるとか、特別な理由がある場合にだけ本来認められるものであります。しかしながら、今までは指名競争入札があたかも当然のように行われてまいりましたが、今後はそれぞれ選択をしていくことになると思うのであります、いかがですか。その際、どのような考え方や基準でこの問題について対処しようとするのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、議案第32号館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についての問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

議案第33号館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第34号館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について、これについてお答えいたします。その大きな第1と第2、今回の改正で対象となりますG世帯は何世帯か、増収は幾らかとの御質問でございますが、9月1日現在老人世帯1世帯で、身体障害者世帯はございません。今年度の増収は1,500

円程度と見込んでおります。

次に、大きな第3、他市の状況についてでございますが、7月1日から実施しておりますところが4市、9月1日から実施しているところが1市、10月1日改正を予定しておりますのが3市でございます。

次に、大きな第4、ヘルパー制度の充実をどのように進めていくのかとの御質問でございますが、現在市民の要望に応じてヘルパーを派遣しております、本年5月からは土曜日の派遣を実施しているところでございます。

次に、大きな第5、新ゴールドプランではヘルパーを倍増するということが、どう考えているかとの御質問でございますが、新ゴールドプランにつきましては、国において今検討中でございますので、詳細は不明でございます。

次に、議案第36号工事請負契約の締結についてでございます。その御質問の大きな第1、一般競争入札に参加した業者についての御質問でございますが、地元4社ほか7社で、業者名につきましては総務部長より御答弁申し上げます。

次に、大きな第2、一般競争入札における行政負担の御質問でございますが、指名競争入札が指名業者の選定、指名通知、入札という事務手続に対しまして、一般競争入札は入札参加資格の設定、公告、申請書の受け付け、入札参加資格審査、結果通知、入札という事務手続を踏みますので、入札までかなりの時間を要したのに加えまして、事務量も増大しましたが、今回は参加業者が少なかったために円滑に遂行されたものと考えております。

次に、大きな第3、入札の際の基準や考え方についての御質問でございますが、入札の実施に当たりましては、地元業者の育成を十分考慮しつつ、館山市建設工事等指名業者選定審査会におきまして、事業の種類、規模、内容等に即して検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 議案第32号に关します御質問の大きな第1の小さ

な第1点目、学習等供用施設の管理運営は、教育委員会社教文化課の管理下に置き、直接的な管理につきましては、昼間1名、夜間1名の臨時職員を配置し、適正な管理に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、運営審議会についての御質問でございますが、公民館は、社会教育法に基づき、館長の諮問機関として運営審議会の設置が義務づけられております。当該施設につきましては、市民の自主的な学習活動の場として利用いただく考えでございますので、運営審議会の設置は考えておりません。しかしながら、施設の管理面等につきましては、社会教育委員会等の中で広く御意見を聞いてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、豊津地区学習等供用施設の利用実績についての御質問でございますが、平成5年度は年間272件、6,643名で、年々増加傾向にございます。

次に、大きな第2、料金についての御質問でございますが、使用料の算定に当たりましては、豊津及び北条地区学習等供用施設の使用料に準じて算出したものでございます。

次に、大きな第3、本市住民が社会教育活動のために使用する場合は無料の解釈についての御質問でございますが、市民が自主的に行う社会教育活動に基づき使用する場合は、これを無料といたします。

次に、大きな第4、駐車場に関しての御質問でございますが、中央地区学習等供用施設建設事業において、乗用車14台、自転車約30台分の駐車場及び駐輪場を計画しております。周辺の駐車場の効率的な利用については協議しておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今回の一般競争入札に参加しました業者名ですが、申し込み順に申し上げますと、株式会社石井工務店、青木総業株式会社、富士土建株式会社、渡辺建設株式会社、日産建設株式会社、株式会社計工務店、山九株式会社、株式会社加賀田組、三菱建設株式会社、多田建設株式会社、大野屋建設株式会社の11社でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） まず、菜の花ホールに関してですけれども、婦人会館は、施設が老朽化しているとはいえ、非常に住民に親しまれて使われた施設で、期待が大きいといえますか、新しい改築に当たってそういう声も私の耳にも入ってきているわけで、新しい施設だけに、当初はいろいろな利用の上で、新しい問題とか、いろんな苦情が出てきたりとか、戸惑いがあったりとか、そういう点が出てきて当たり前だろうと思いますので、制度的にそういうものを反映していくのが公民館に比べてないわけですから、その辺は運営に当たって教育委員会の方で意を用いていただいて、工夫をしながらぜひお願いしたい。よりよい施設として、市民に親しまれるものにしていただきたいなと思います。

そこで、豊津地区の学習等供用施設の問題も、率直に言って少ない件数で、他の公民館などに比べても、施設が立派で大きい割には非常に利用実績が少ないというのが率直な私の考えですけれども、こういうところも含めて、住民の参加ということで、住民の意見をどうやって反映しながらやっていくのかということで、ぜひ意を用いてほしいなと思います。

料金に関してでありますけれども、豊津あるいは北条の既にあった学習等供用施設に合わせて料金設定をしたということでもありますけれども、もともと私は北条とか、ほかのところの施設についても高いという市民の声を聞いているわけで、北条や豊津に合わせたという以上、じゃ北条や豊津は何を基準に決めたのかという問題になるわけです。私もそれなりに調べてみましたが、近隣の町等の類似施設では大体 1,000円前後かな。いろんな料金—— 具体的ですから、それぞれのあれで違いますけれども、比較してみますと、大体 2,000円近くになっていますから、どうも高目だな、館山のは近隣に比べると高いんではないかという感を持っているわけなんですけれども、こういう類似施設で、今回たまたま菜の花ホールということに限らず、北条、豊津を含めまして、類似施設との比較では高いのではないか。現実に公民館などは大体 400円ないし 500円でありますから、公民館の中には老朽化している

ものもありますから、そういう老朽化しているものに比べればこれでもいいんだという言い方もあるんでしょうけれども、全部が全部老朽化しているわけじゃないですから、そういう点では目的外使用に関しての料金の体系というのがいま一つ納得できないなという気がするんです。

それでお尋ねしたい点は、近隣の市町村等の類似施設との比較、あるいは館山市で類似施設である公民館との比較、この上で現在の料金というのはいかに考えられるか、お聞かせいただきたいと思います。

それから、私どももずっと使っていたから当たり前かなと思っていましたが、けれども、例えば今度の菜の花ホールでも、第1集会室の料金、目的外使用の料金は、午前中は1,540円、午後が2,060円というふうに時間帯によってこの料金が変わるわけです。これはどうしてなのかなと考えてみると、よくわからないんです。午前、午後、夜間というのはなぜそういうふうに料金が違うことになるのか、この辺はどういう考え方なのかなということで、あわせて御説明をいただきたいと思います。

次に、身体障害者及び老人ホームヘルプサービスでありますけれども、身体障害者は該当者ゼロ、老人で1人ということでありますから、値上げによる市の増収は1,500円というんですから、本当に御苦労なことで、このために提案をなさったわけですがけれども、それだけに県内でも年度途中で値上げするところは少数派のようでありますから、あえてそういうことを館山市がやっているわけで、皮肉かもしれませんが、この老人ホームヘルプサービスについて議会の審議にしてもらいたい、それであえて今回こういうわずかな条例改正でも提案をして、そういう機会を提供したものだというふうに好意的に私は理解をして受けとめたいと思います。

そこで、そういう点から、きのう敬老の日ということで発表されて、朝日新聞で発表されて、在宅福祉サービスの利用率、県内は全国平均をはるかに下回るという数字が出まして、これで館山市の数字はどの程度かなと思ったら、県内は全国平均をはるかに下回るけれども、館山市は老人の数だけは県内平均をはるかに超えていますけれども、利用率に関してはその県内平均をはるかに下回る。はるかに下回る県の基準をさらにはるかに下回るのが館山

市の現状だということで、慄然とする思いなわけです。

それでお尋ねするんでありますけれども、館山市の平成4年度におけるホームヘルパーの年間における利用率、老人人口100人当たり、これはどのような水準になっておりますか。全国的にはこの間、3年の間に50%ぐらいふえているんです。私が見ている限りでは、どうもこの間館山市は老人の数がふえて、かえってマイナスになったんじゃないかなということも懸念される——そういうことはないとは思いますが、しかしどの程度伸びているのか、ますます全国平均より置き去りにされていくような状況がありはしないかということを中心を心配するわけで、いや、館山市は3年前は17.1日で大変国の平均よりも低かったけれども、今猛烈な勢いで追い込みをかけて数字は上がっているんだ、こういうふうに理解ができるのかどうか、むしろ水をあけられてきているのか、その辺を判断したいと思いますので、平成4年度におけるホームヘルパーの利用率、具体的な数字でお示しできればお願いしたいと思います。

それから、新ゴールドプランについては、国において検討中だから不明だということでありまして、不明じゃなくて、ちゃんと公表されていますから、ゴールドプランの内容自身は、ですから今後どうなるか不明だという意味で言ったのかなと思いますけれども、これ自身は公表されているものですから——当初国が10万人と言ったものを、これを——1999年までに10万人と言ったものを、全国の集計をしたら、10万人よりもはるかにたくさん市町村からホームヘルパーの数をふやさなきゃいかんという数字が出されて、それを集計したらそれ以上になっちゃったんです。そういう事態を踏まえて、国はこれはいかんということで、改めて1999年までに10万人の数字を20万人に検討し直す必要がある、それが新ゴールドプランというふうにして言い出したものです。10万人が終わったら20万人じゃなくて、終着駅は同じですから、それまでに今までのテンポを倍にしなきゃならない、こういう考え方のようなのです。

そういう点からいたしますと、館山市のホームヘルパーの54人というこの数字は、新ゴールドプランがこういう方向で決まったとすれば、全国のこの

ゴールドプランの平均の水準のわずか4割という大変低い状態になるわけで、これは国の動向を待ってというようなことを言っているのも言えないんじゃないか。私は当初のゴールドプラン自身、館山市は10万人の目標からしても8割の達成水準だという点を指摘してきましたけれども、そういう点からしても、これはもっと抜本的に、根本的に考え直さないといけないんじゃないかなと思うんですけども、その辺は根本的に、国の動向も含めて、今後のホームヘルパーの充実の問題について、54人という従来的人数にこだわることなく、抜本的に考え直すというようなお考えがないかどうか、この辺をお聞かせいただきたいと思います。

次に、工事請負契約に関してであります。今回一般競争入札を実施した中で、一般競争入札になりますと、どうしても資本力がある事業所、こういうところが有利になって、総体的に中小業者である地元業者がはじかれるようなことになりはしないかなという、こういう懸念は当然あるかなと思うんですが、今回は資格要件の問題についてはどのようになされたのか。具体的には、自治法の施行令で、経営の規模、従業員数、資本金、こうしたところから一般競争入札の資格について決めることができるし、あるいは167条の5の2によって、事業所の所在地についての制限を設けることも市町村長の責任でできるわけです。こうした資格要件について今回はどのようになされたのか。そして、それとの関係で、地元業者の育成という問題が今後大事なことだと言われておりましたけれども、こうした点はその関係でどういうふうに考えておられるか、お聞かせをいただきたい。

それから、指名にするか、あるいは一般競争入札によるか、これについては、先ほどの御答弁では、指名委員会の中で検討をしていくというような御答弁だったのかなと思いますけれども、そういうことなのかどうか。

以上の点について御答弁をお願いします。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 3点についての御質問だったように伺っておりますけれども、まず第1点目の近隣との比較ということでございますけれども、現在手元にございませんけれども、それはまたちょっと後で調べたいと思い

ます。

時間帯によるところの料金差というお話が出てまいりましたけれども、これは使用時間帯も一応含まれておりまして、一応午前中が3時間、午後が4時間、それとあと夜間というふうになります。夜間は、御存じのとおり、光熱費等いろいろなものがここにかかわってまいりますので、自然にそういうような料金体系というものが出てきたというふうな計算もあるわけでございます。それから、一般的にも、さらにつけ加えるならば、やっぱり使う時間帯によりまして希望者も多いというようなこともありますけれども、基本的にはそういうようなことが大きな問題になっておるわけでございます。

それから、3番目のいわゆる目的外というお話でございましたけれども、この菜の花ホールにしろ、他の社会教育施設というものは、従来は目的が社会教育活動を中心とするものでございまして、市民が使うということが主眼でございます。市民が使う場合には、大部分がこれは無料になっているのが今までの現状でございますし、今後菜の花ホールにつきましても、今までのことを考えてまいりますというと、市民が社会教育活動に使われる場が多いというようなことが考えられますので、その他のことにつきましては、他の公共団体、また他の公共等または教育機関等でもって、事務所を市内に置かない場合等につきましては、減免等をまた考えているわけでございますので、今後も同じような取り扱いをしてまいりたい、こう考えます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 平成4年度のヘルパーの年間利用率、100人当たりの回数はという御質問でございすけれども、約18回でございす。

それから、ヘルパーの充実について考え直すことはないかということでございますけれども、現在行っておりますとおり、あくまでも需要に応じて対応するという考え方でいるわけです。いずれにしましても、平成8年度に計画の見直しを行うということになっておりますので、今後需要といえますか、必要量の推移の把握に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。



◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今回の一般競争入札につきましての関係でございます。

1点目が地元業者の育成というお話でございましたが、今回初めて一般競争入札を行いまして、地元業者で施工可能な工事については、地元建設業者も参加できる資格要件を設定したわけでございます。その具体的な資格要件はどうなんだという話でございましたけれども、幾つか資格要件があるわけでございます。例えば、工事の経営事項の審査の総合数値があるわけでございますけれども、その総合数値の設定の仕方によりまして、地元業者の育成も十分図ることができる。

それと、2点目でございますけれども、今後の指名、一般にするかどうかについての御質問でございますけれども、今回初めて一般競争入札を施行したわけでございます。これからその規模や内容、あるいは本格導入するかどうかも含めて、館山市建設工事等指名業者選定審査会で現在も検討しておりますのでございますけれども、さらに詳細にわたって検討してまいりたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） ホームヘルプサービスの関係で、今の御答弁ですと、平成4年度の利用日数は18日 — 18回と言った御答弁だったと思いますけれども、正確にはあれなのかなと思うんですけれども、一応18という数字を受けとめまして、3年前の数字で私が議会で承っていたのは17.1だったんです。そうすると、18というのは3年間の間に0.9ポイントふえている。マイナスにはならなかった。しかし、そんなにふえている数字ではないですね。この間、国の方が全国水準で46.6ポイント上がっているのから比べますと、上がってないと言ってもいい数字ではないか。どうして館山市は全国的にはどんどんふえている状況に比べてこんなに少ないんだろうか。伸びも少ないし、ますます差が開いていくということを私言いましたけれども、具体的な数字を見ますと、そういうことを感じざるを得ないんです。

先ほどの御答弁ですと、土曜日の派遣もするようにしたということで、制度の改善——もっと利用勝手のいいものといえますか、そういうヘルプサービスにしようということで努力されているようでありますけれども、しかし——それぞれ需要に応じてこういうサービスをどんどん充実していきたいというお話だったんですけれども、需要に応じてというふうに言っていられないんじゃないかなと思うんです。というのはどういうことかといえますと、実際には需要に応じてというような受け身ではなくして、そうした需要が見込まれるだろうと思われるような世帯、こういうところにはやはりもっと親身な相談といえますか、そういうことも心がけないといけないんじゃないかなと思うんです。

今回社会福祉協議会が独居老人を対象にして電話による電話訪問というような事業を手がけるということでもありますから、これはこれでまた、いろんな制度の説明をしたりとかということもその過程の中で出てくるでしょうから、新たなやはり需要を——潜在的な需要といえますか、そういったものを掘り起こしてくることになるんじゃないかなと思うんです。非常に大事なことだろうと思うんですが、市としてもこうした点で、もっとホームヘルプサービスが必要だと思われる世帯へのいろいろな相談を親身に行う、こういうことが必要じゃないか。例えば、特別養護老人ホームなどは今デイサービスをやっておりますし、こうしたデイサービスを受けている方々はその後どういうふうになっているのか、ホームヘルプサービスについて必要はないかどうかとか、積極的に行政の側から切り込んでいくといえますか、そういうことがないと、現実にはなかなか需要というのは伸びなくて、館山市のこのホームヘルパーの利用率が非常に少ない。それは住民の方から声が出ないからそれでいいんだということを言っていたんでは、これはやはり違うんじゃないかなと思うんです。

そういう点で、もう少しお考えを変えないといけないんじゃないか、もう一步突っ込んだことが必要じゃないかなと思うんですが、その辺についてどういうふうにお考えになっておりますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ホームヘルパー派遣の世帯の把握、これを積極的に把握すべきじゃないかという御質問でございますけれども、今民生委員等を通じまして、地域に精通した民生委員等を通じましていろいろ把握をしているわけでございます。そういったことで、館山市としては、現在その把握漏れとか、そういったケースは全くないわけで、これからもその考え方で把握に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第32号乃至議案第36号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

#### 議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第3、議案第37号乃至議案第39号の各議案を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第37号平成6年度館山市一般会計補正予算（第1号）についてお尋ねをいたします。私の質問は議案書に沿って行います。

10ページをお開きください。民生費の老人福祉費の中で、ショートステイ

措置扶助費 1,671万 1,000円、ミドルステイ措置扶助費 465万 6,000円が計上されております。当初予算では、ショートステイ措置扶助費は 406万 6,000円が計上されておりました。また、ミドルステイ措置扶助費では90万 1,000円が計上されておりました。今回の補正額は、当初予算に比べてショートステイ措置扶助費は 4.1倍、ミドルステイ措置扶助費は 5.1倍になります。当初予算に比べると、大変大幅な増額予算ということになるわけでありまして。議案説明書によりますと、利用人員の増によるということですが、これだけでございますので、具体的に御説明をいただきたいと思います。

12ページをお開きください。土木費の中で、道路新設改良費ということで 8,827万 8,000円が計上されております。財源の内訳を見ますと、全額一般財源でございます。説明資料によりますと、市道1033号線ほか1線道路舗装と市道1158号線ほか4線道路排水ということでありまして。この具体的な内容について、それぞれ御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、都市計画費の公園費の中で、複合リゾートカントリー整備計画調査委託料として 2,300万円が計上されております。説明書によりますと、ウエルネスリゾートパークを見直すとのことでありまして。ウエルネスリゾートは、民間の各種リゾート開発の中核に位置する事業と位置づけられてきました。市内の民間リゾート開発計画は事実上とんざしているという状況ではないかと思いますが、どのように認識していますか。いわゆるバブル崩壊で、リゾート開発も一時のような押せ押せという状況ではありません。このような時期だからこそ、この館山にふさわしいリゾートを落ちついて検討する大事な機会だと思います。計画のテンポについても当然落ちついたものになるかと思うのであります。計画内容の見直しをするとのことですが、どのようなことなのか、具体的に御説明をいただきたいと思います。

次に、12ページの教育費の保健体育費、体育施設費に関してであります。多目的運動広場整備事業に 3,900万円が計上されているわけでありまして、清掃センター東側に運動広場をつくるとのことですが、この工事について御説明をいただきたいと思うのであります。この運動場の供用の開始はいつごろになるものと見込まれますか。また、この場所は自動車以外は大変

交通の便の悪いところではありますが、駐車場についてはどのようになりますか。また、この計画は今後の整備計画との関係で考えられておりますか。いかがですか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第37号に関します御質問の大きな第1、民生費、ショートステイ措置扶助費及びミドルステイ措置扶助費についての御質問でございますが、利用券方式の定着化と、本年3月に館山特別養護老人ホームに併設されましたショートステイの増床により、利用者は大幅に増加しております。4月から6月までの3カ月間で昨年度1年分の実績を超えている状況でございます。

次に、大きな第2、土木費、道路舗装、排水整備事業についての御質問でございますが、市道等の整備につきましては、特に地域住民からの要望も多く、生活環境の充実を図る上で重要であると考えておりますので、増額補正をし、整備促進を図ろうとするものでございます。事業内容として、市道1033号線ほか1路線で450メートルの道路舗装及び市道1158号線ほか4路線で750メートルの排水整備工事を実施しようとするものでございます。

次に、大きな第2、土木費のウエルネスリゾートパーク事業についての御質問でございますが、既に策定した基本構想について具体化を図るため、各ゾーンのエリア、導入施設及びインフラ整備等の調査を建設省の補助を受けまして実施しようとするものでございます。

なお、事業の推進につきましては、今後とも地権者の方々の御協力を得ながら用地の先行取得を図るとともに、国や千葉県等へ積極的に働きかけてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、教育費に関します問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

(教育長高橋博夫君登壇)

◎教育長(高橋博夫君) 次に、大きな第3、教育費、多目的運動広場整備事業についての御質問でございますが、広場の供用開始は平成7年3月、駐車場は広場周辺の市有地を予定しております。また、今後の整備につきましては、利用状況等を勘案しながら検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長(辻田実君) 21番神田さん。

◎21番(神田守隆君) 先ほどホームヘルパーの話もしましたが、現実にはショートステイが施設が整備された途端に激増しちゃったんです、これ。だから、市の体制が整備されて充実させられれば、一気にこれがふえたというのがショートステイの1つの実態だったと思うんです。そこで、4月から6月で1年分の実績を超えたということでもありますけれども、同じく先ほど — 敬老の日で、ちゅうどたまたまきのうみんな公表されたんです。ショートステイの利用状況についても公表されました。65歳以上の方100人当たりの延べ利用日数、千葉県が19.9です。約20というところだと思うんですが、全国平均で16.6であります。平成4年度の65歳以上人口でこの年度の延べ利用日数を割り返してみますと、館山市の水準は平成4年度で6.8なんです。館山市のショートステイの利用率は、平成4年度時点で県平均のわずか34%の水準、3分の1の水準なんです。ですから、施設が整備された途端にこれが激増するというのは、ある意味では当然のことだったというふうにも思うんです。

そこで、今回 — もともと県平均の3分の1の水準でしたから、今回施設が整備されて激増したといっても、どの程度の水準になるのか。平成4年度の平均に比べれば、大体全国平均あるいは千葉県水準にこれであるのか。どのくらいの年間の利用延べ日数というふうに見込んでおりますか。私が試算したところでは、年間の延べ日数で2,275日になれば大体平成4年度の県平均の水準になるわけですが、年間の利用延べ日数はどのくらい見込まれるのかお聞かせをいただきたい。それによって、国や県の水準と館山市の水準がどの程度のものなのかという認識をしていきたいと思いますので、よ

ろしくお願いしたいと思います。

次に、土木費の関係なんですけれども、1033号線といいますと、ちょうど半澤市長さん — 前の市長さんのうちの前の道路の、一方通行だったところの舗装、あそこ最近一方通行が解除されて、車が大分入るようになったせいで傷んだのかもしれませんが、あるいは1858号線という、湊団地の中に入る道路、あれも通過車両ということで、かなり道路交通がふえたというような関係から今回やられたんではないかなと思うんですけれども、しかしいずれにしましても、割と大きな今回補正だというふうに私自身認識するんで、従来は当初予算の中でこうした問題が論議されて、当初予算の中で組まれるというのが基本で、しかし緊急性とか重要性とかというような点から特に特段の配慮が必要だったという場合にこういうふうに組まれるということになるかと思うんです。私はこの予算をどんどんやられることについて異議を唱えるものじゃないんですけれども、そうした緊急性とか、そういう点からどうだったのか、その辺の説明がないと、余り大きな補正というのはどういうことなのかなというふうに思いますので、その辺についての御説明をいただきたいなと思うんです。

それから、次にウエルネスでありますけれども、どうも今の御説明ですとよくぴんとこなくて、大変申しわけないんですけれども、端的にお聞きいたしますけれども、94年の1月、ことしの1月に総務庁は国土庁に対して、リゾート開発計画はずさんだ、だからこの際リゾート構想の見直しを自治体に対して指導しなさい、こういう勧告を総務庁がしたんです。そして、これを受けて千葉県当局は、現在の構想は千葉県については問題ない。したがって、これを推進するんだ。国の指導と千葉県の担当部局の言い分とが違っているんです、この問題について。ですから、今回出されてきたこの複合リゾートのカントリー整備計画調査ということで、どういうことなのかということをお尋ねしたいのは、この館山のリゾート構想全体の中で中心的な位置を占めているウエルネス — いわばコア施設とか中核施設とかというような言い方をしてきたわけなんですけれども、これの手直しをするということは、全体の構想との関係で議論がされて、それとの関係で見直しをしようという議論の中

で位置づけられている問題なのかどうなのかということなんです。そういう点では、そういうこととは全く関係ないよ、千葉県当局が言うように、現在のリゾート構想は推進ですよというのか、あるいは総務庁の勧告に基づいてこの際見直しをするという、そういう路線の中で出てきた問題なのか、どちらなのかということをお聞かせ願いたいということなんです。

それから、この構想に関して、ウェルネス構想の中で、全員協議会でいわゆる漫画共和国というような構想についてお話がかってありました。これについてはその後何ら話も聞いていないわけですがけれども、一応立ち消えになったものなのか、いや、引き続きこの問題は今回の構想の中でも重要な要素として検討の対象とされるということなのかどうなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

あと、多目的運動広場に関してでありますけれども、今回補正で急遽——コミセンの前の広場が使えなくなるような事情を踏まえて、急遽こうした補正を組んでやろうということで、これはなかなか大したものだなということで、率直に当局の御努力について評価いたします。それだけに、緊急性でやったということもあるものですから、どうしても整備については手拔かりがあったり、こういう点をもっとやればよかったとかということが出てきて当たり前だろうと思いますので、利用者の意見、こういったものを十分勘案して、今後の整備について特段の配慮をそういう点でお願いをしたいということで、これは要望でとどめておきたいと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ショートステイの年間の利用延べ日数は何日ぐらいかということでございますけれども、平成6年度で計算しますと、予定として2,918日を見込んでおります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 補正の増加の理由ということでございますが、平成6年の8月に国、千葉県より、経済を平成6年度中に、できるだけ早い



時期に本格的な回復軌道に乗せまして、平成7年度以降に安定成長を確実にしてほしいということで、こういうものに基づきまして、平成6年度予算を可能な限り景気に配慮してほしいということを踏まえて、公共投資の充実による内需の拡大を図るべく、投資的経費でございます地方単独事業の積極的な推進を図ってまいりたいということで、この補正をお願いしておるところでございます。また、先ほど市長から御答弁申し上げましたように、非常に地域の住民から要望が多いものですから、かねてから要望しておったところでございますので、この補正をお願いするものでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） ウェルネスリゾートパークの関係でございますが、全体構想を見直す、いわゆる総務庁で言う全体構想を見直す、そういうことではございませんで、館山市独自でこのウェルネスリゾートパーク構想というものは進めているわけでございます。それをこれから一步進めていく上で、運動公園の拡張要望等も絡んでこれらの構想を見直す、そういうことでございます。

それから、漫画共和国についてで、漫画家の集団でございますが、その後継続いたしておりまして、種々接触をいたしているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） まず、ショートステイ、ミドルステイで2,918日ということで、一応これだけの延べ日数が見込まれるということでありますから、だとすれば、一応平成4年度における県平均を超えるということでありますから、このこと自身は大変今度の成果というものが上げられたんじゃないかなということで、これ自体は評価すべきことじゃないかなと率直に思います。今回こうした施設を整備すればこれだけのやはり需要が出てくるとことは、ショートステイ、ミドルステイは一応全国的に肩を並べるところまで今回いきますよということなんだけれども、それだけに他の分野、こういったものについてもいっちゃんというのはなかなか難しい問題もあ

りますけれども、財政の問題も勘案しながらということになりますが、しかし今回のことを踏まえて、やはりヘルパーにしてもデイサービスにしても、受け入れ態勢というものを整備すれば一気に出てくる可能性があるんだということ、そういうことで今回のことを受けとめる必要があるんじゃないかなと思います。

それで、次に土木費に関して、地方単独事業を国がもっと景気浮揚策でやrinaさいという通達に基づいて今回急遽やったということで、これ自身に緊急性があったとかというよりも、従来からあったものを今回そういういきさつで取り上げたということではありますが、全額地方単独事業ということでもありますから、国の方では言う以上はこれに対する一定の財政上の措置があるのかと思うんですが、どのようにされているのか、その点についてお聞かせをいただきたいなと思うんですが、国の方はこれに関しての — 地方単独事業でやれと言うだけなのかどうなのか。

それと、ウェルネスでありますけれども、全体の構想との兼ね合いで今回見直しをしようとするものではないということでもありますから、それはそれとしてわかりましたけれども、それにしても、全体構想は生きているというのはどうも架空のことになりはしないか。今回このウェルネスの見直しを検討する上でも、周辺の民間リゾート施設との関連という問題を抜きにして、これだけを議論するというのも — できないこともないのかなとは思いますが、しかしいささかどうかなという気もするんです。そういう点で、周辺の民間リゾート開発についてどのように現状を認識をされているのか、その辺についてお聞かせをいただきたいと思います。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 景気浮揚のための地方単独事業ということで、国の支援があるかという話でございます。それに対するお答えでございますけれども、平成6年度の地方財政計画、これを見ますと、地方単独事業の伸び率を12% — これは御承知だと思うんですが、そういう中で館山市の当初の地方単独事業の進捗率は2.7%、こういうことであったわけでござ

います。そこで、先ほどの建設部長の話もありましたように、そういう中で積極的な地方単独事業を実施したい。そういう中で、私ども財政担当部局からしましても、館山市の財政の体力——その体力といいますのは健全性とか弾力性という話になると思うんですけれども、その館山市の財政の体力を考えながら、適正な規模の追加である、こういうふうに考えております。そういう意味から、特にこれにつきましたの国の方から特別な支援は現在ございません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 民間リゾートの現在の状況についての御質問でございますが、まず南たてやまマリパーク計画につきましては、現在計画そのものは見直しを検討している、そういう段階であるというふうに企業の方から伺っております。それから、太陽海岸平砂浦計画につきましては、土地の先行取得絡みの中で金融機関との調整が必要だというようなことで、現在地元への交渉は一時中断をしている、そういう状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となっております議案第37号乃至議案第39号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

#### 請願書の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第4、請願第20号老人医療の入院給食助成に関する請願書を議題といたします。

### 委員会付託

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となりました請願は、お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

### 議長の報告

◎議長（辻田 実君） なお、この際申し上げます。

9月7日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

### 請願書の取り下げについて

◎議長（辻田 実君） 日程第5、請願書の取り下げについてお諮りいたします。

議会運営委員会において継続審査中の請願第19号館山市議会議員定数削減に関する請願書につきまして、請願者から願意実現により取り下げたいとの申し出がありました。申し出のとおり、請願書の取り下げを承認することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（辻田 実君） 起立多数であります。よって、請願書の取り下げを承認することに決しました。

延 会 午前11時19分

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明17日及び18日は議案調査のため休会、次会は9月19日午前10時開

会とし、その議事は平成5年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第31号乃至議案第39号

1 請願第20号

1 請願書の取り下げについて（請願第19号）